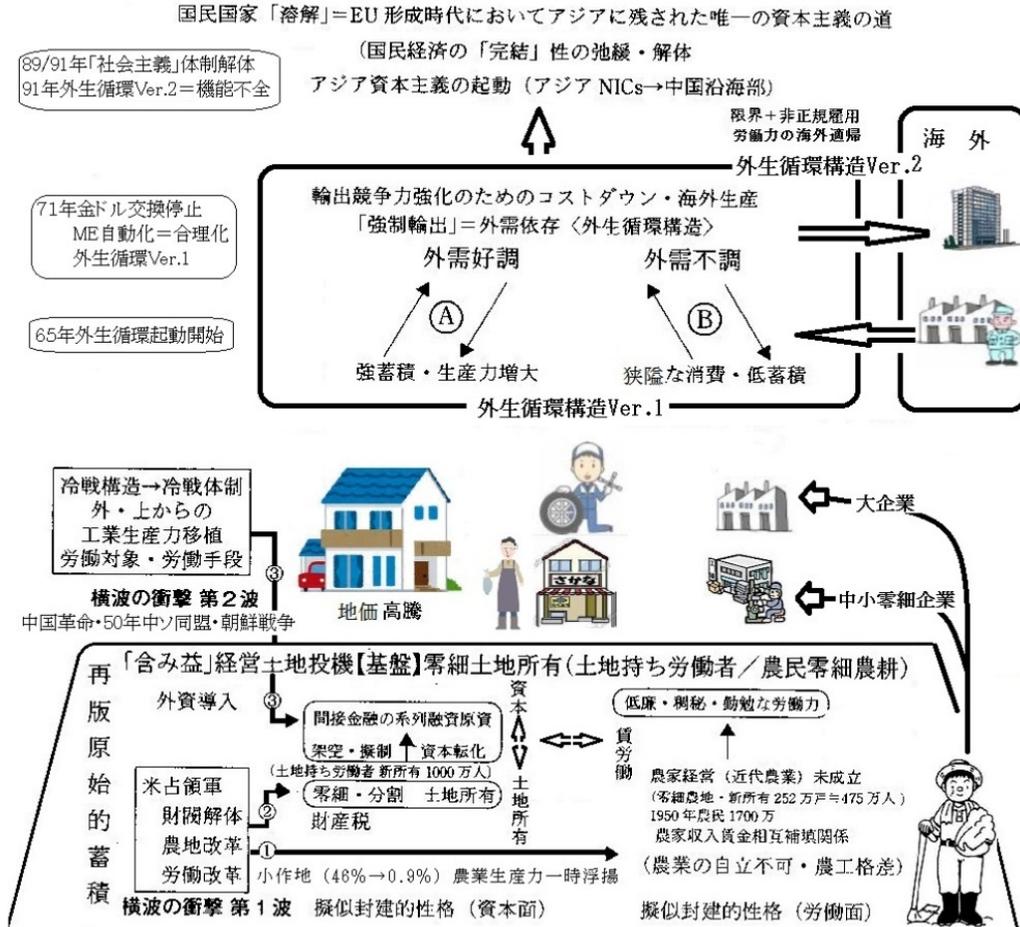


「(仮) 戦後日本資本主義の構造としての派遣/非正規労働と過労死  
 —「生命消磨的労役条件」「インド以下の労働賃銀」再考—

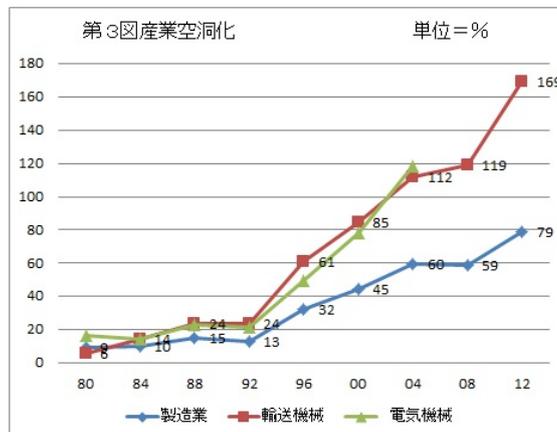
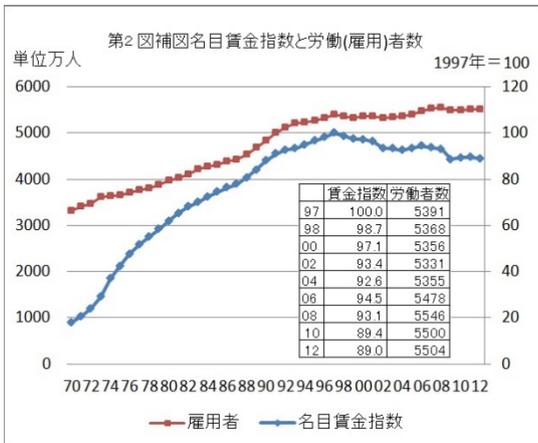
■日時：7月18日(土)午後1時30分～5時30分：涌井秀行(明治学院大学  
 平和研究所所員・前教授)

報告趣旨 派遣/非正規労働と過労死を戦後日本資本主義の構造問題としてとらえかえす。

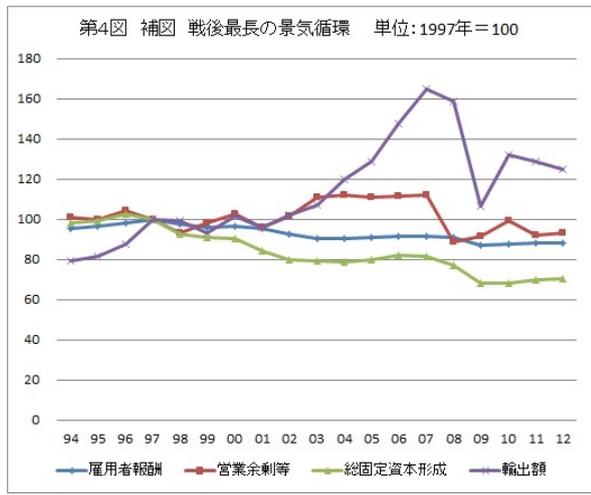
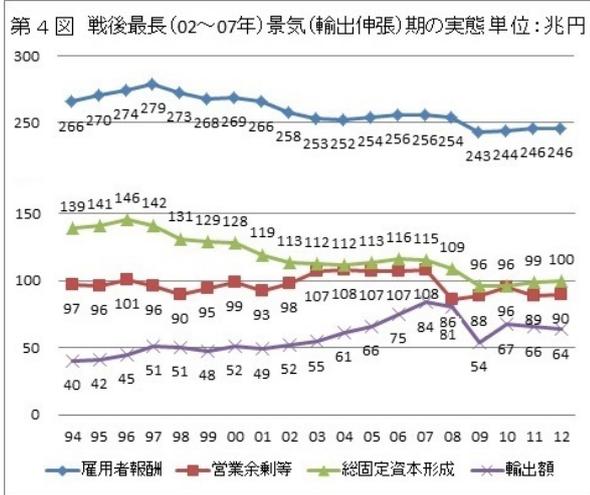
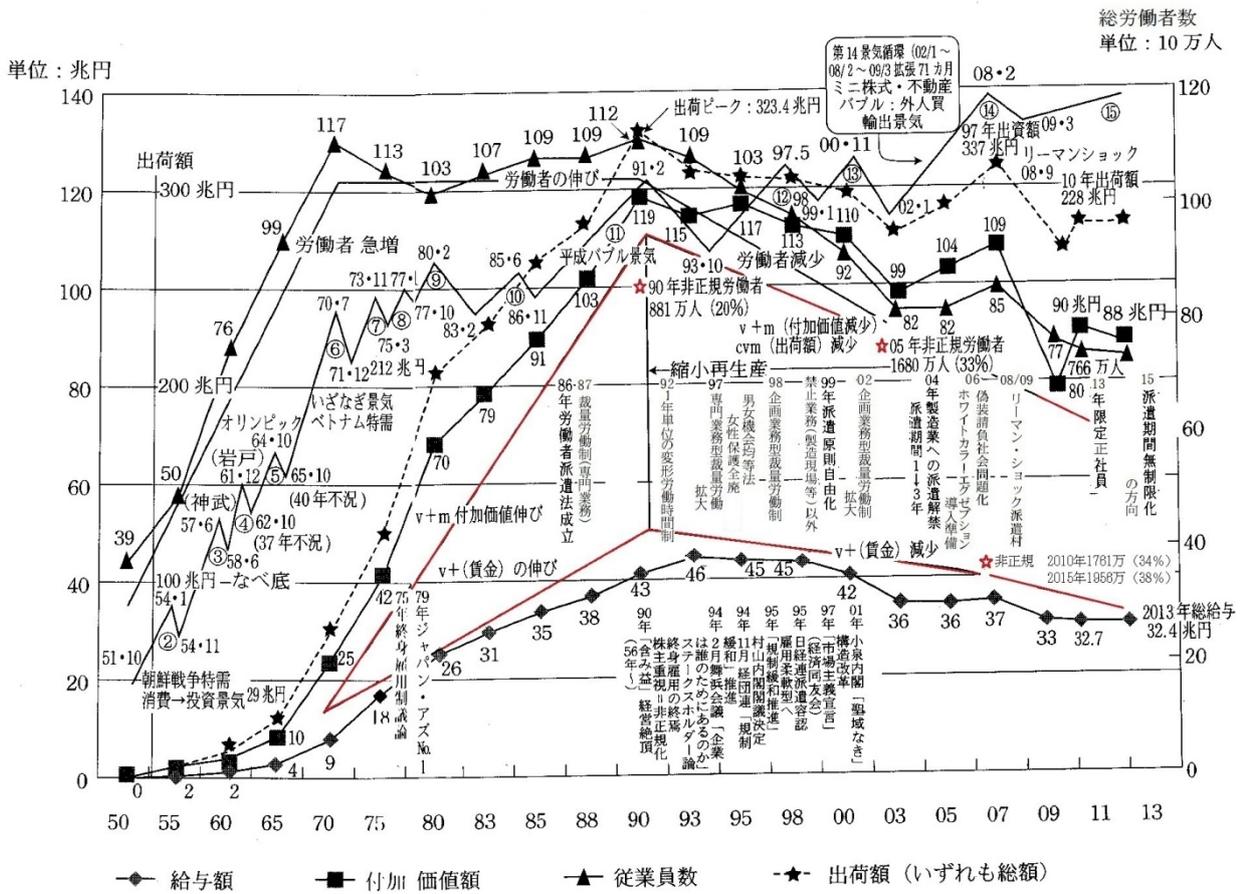
第1図 戦後日本資本主義の基本構造/構成 外からの資本主義発展の道



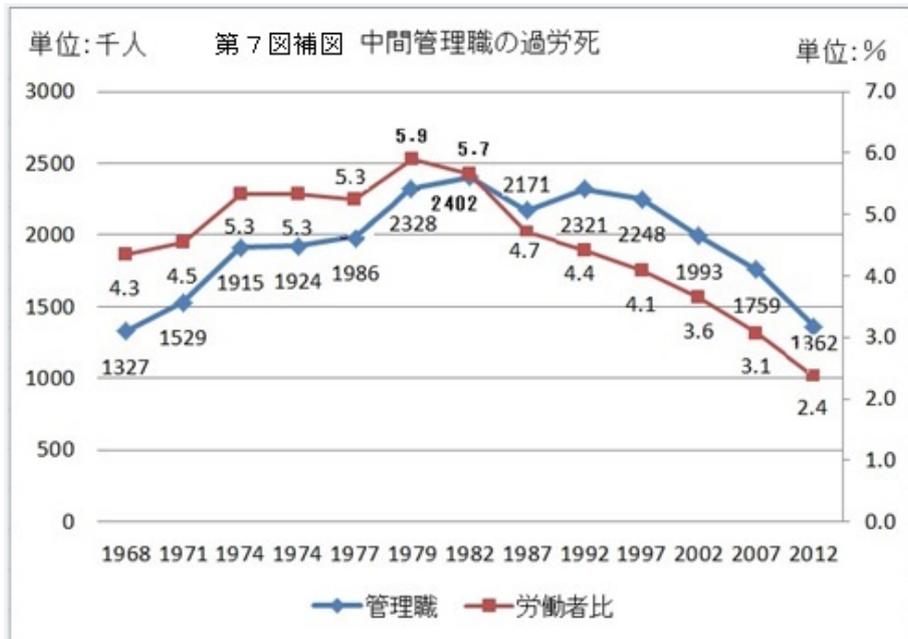
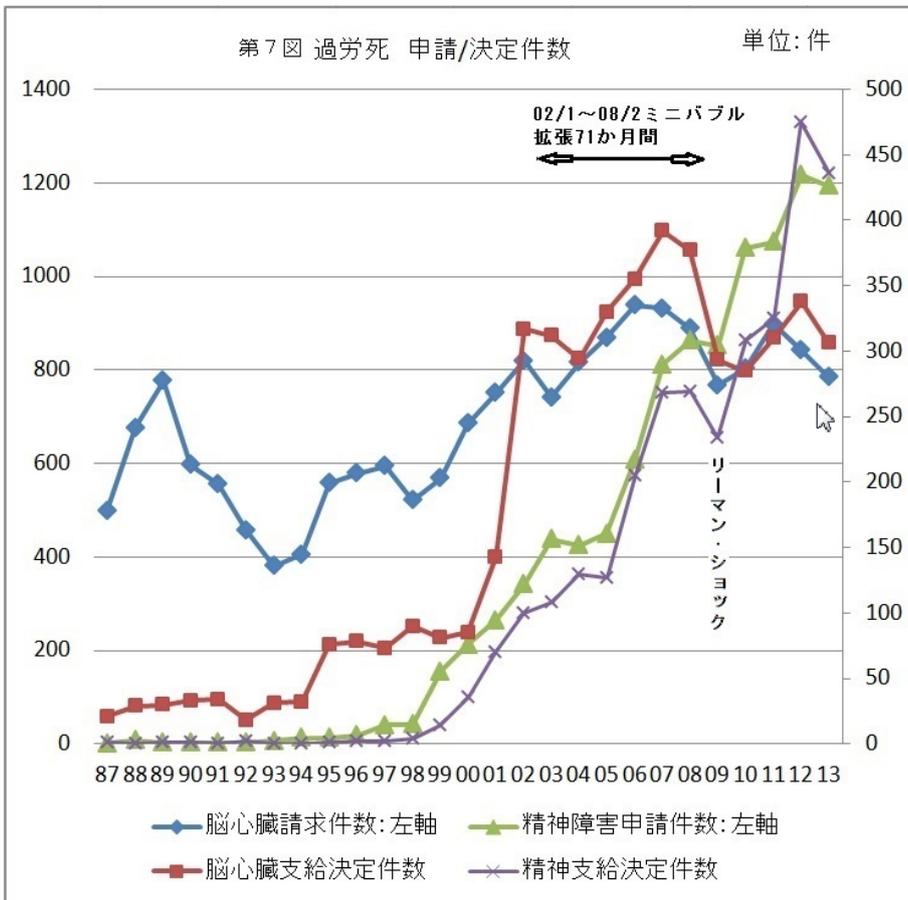
戦後日本資本主義の基盤



第2図 戦後 資本賃労働







	フォード		GM		東洋工業		日産	
所要労働時間	84 時間		83 時間		53 時間		51 時間	
労賃	1848	27%	1826	29%	620	13%	593	12%
資材購入費	3650	53%	3405	54%	2858	58%	2858	57%
その他コスト	650	9%	730	12%	350	7%	350	7%
非製造コスト	350	5%	325	5%	1100	22%	1200	24%
コスト計	6948	100%	6286	100%	4928	100%	5001	100%

それにしてもなぜ、どうして「過労死」に至るまで働くのか。「忠・考」「半隷奴的賃金労働者」戦後も